

山ぶどうの新たな可能性を探っていききたい

平成27年度いわて特産品コンクール食品部門
「山ぶどうの新芽のピクルス」で県知事賞を受賞

三浦学さん

ミウラ・ガク 42歳 野口



昭和48年、神奈川県出身。フォトグラファーとして、スポーツ、報道関係の仕事に従事。縁あって八幡平市に移住し、山ぶどう生産者として農園『WILD GRAPE FARM(WGF)』を営む。B型のかに座

「いつにはこの自然がある。生態系を崩さないためにも農薬は使わない」と、生産者としてのこだわりを見せるのは、平成27年いわて特産品コンクール食品部門に『山ぶどうの新芽のピクルス』を出品し、八幡平市初の県知事賞を受賞した三浦学さん。

約7年前に移住し、奥さんの実家の山ぶどう農園を受け継ぎ『ワイルドグレープファーム』を経営。雑味やえぐみの少ないジュースを中心に、山ぶどうを使った塩やお茶も販売しています。現在は、東京スカイツリーに隣接する商業施設『東京ソラマチ』や『伊勢丹』などの百貨店に商品が並ぶことも。

商品のパンフレットやパッケージデザインまでも自身で手掛けることについて



『山ぶどうの新芽のピクルス』

春に間引きした新芽を有機の原材料などにじっくりと漬け込んだピクルス。農薬を使用しないからこそ作られる逸品

「商品への思いを伝えるには、色やデザインに反映させないとね」と、語る三浦さん。今回県知事賞を受賞した新芽のピクルスも、購買層の設定、それに合わせた総合的なデザインや新規性が評価されました。

「全て手作業だから、ピクルスはまだまだ多く出せないんだけど、見掛けたら手に取ってもらいたい」と笑顔を見せ、「これまでのスタンスは崩さず、他の人がやらない新しいことに挑戦し続けていきたい」と、今後に意欲を高めていました。

今月の表紙 いつまでも元気でいてね

9月8日、平館地区敬老会が八幡平ロイヤルホテルで開催されました。

会では、平館保育園の園児24人がお遊戯を披露し出席者を祝福。その後、年祝いの対象者に、園児たちから自身の似顔絵と花の首飾りが手渡されました。プレゼントを受け取った人の中には、嬉しさのあまり涙ぐむ人も。会場は園児たちとの触れ合いを楽しんだ出席者の笑顔であふれました。



似顔絵を贈る園児

編集後記

八幡平市に来て半年が経とうとしています。今号で紹介したあっぱりレーマラソンも含め、市内の走るイベントに5回参加。まさに駆け抜けた半年でした。走るのが得意というわけではないのですが、走る姿が広報に載ったことから、職場外でも声を掛けられるようになり、走りキャラとして認識されつつあります。これから迎える寒い季節も走り抜くことができるか。多少の不安を抱きつつ、年度後半戦突入。

②沙